

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	豊橋技術科学大学
整理番号	B06
構 想 名	『グローバル技術科学アーキテクト』養成キャンパスの創成

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 本構想は事業期間全体において、「多文化共生グローバルキャンパス」の実現を通じて、国際性に富んだ技術科学の創造的なリーダーの育成を目指し、技術科学大学としての特性を活かした国際化推進がなされたものとなっている。この点において、理工系大学教育の国際化のモデルとなり得るものであると言え、評価できる。 特に、高専との連携や、全学における英日バイリンガル授業の実施、及びマレーシア海外拠点（ペナン校）の活用、学部の全5課程がJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けており、技術者教育の質を保証していること等は、貴学の特徴的・画期的なものである。財政支援期間終了後を見据えた戦略においても、異文化理解に基づく課題解決力を有する実践的高度技術者・研究者の養成のため、従来型の学生宿舎を改修・整備を行い、宿舎に居住しない者を含む日本人学生と短期滞在する研究生などの非正規生を含む外国人留学生といった幅広い学生が、共生・共修することのできる環境を整備したことは、今後の持続的な発展に大きく寄与すると考えられる。 これらの取組を着実に推進したことより、本事業の成果指標において、外国人教員数の増加や外国語のみで卒業できるコースの拡充、研究論文等の国際共著率、職員における女性比率、教員の年俸制適用率、職員の英語運用能力等の向上で成果を上げたほか、グローバル化に対する全学的な推進体制の構築・迅速な意思決定なども進んだと言える。 一方で、日本人学生の送り出しや留学生の受入れといった学生の流動性の確保や、日本人学生の語学力の向上、留学生の進学先や就職先の確保、事務職員の年俸制、早期卒業制度の実施検討、寄宿舍の入居率、民間からの寄付金による財源確保などには一定の課題があり、今後のさらなる改善を期待したい。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	